



## 2021年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2020年7月27日

上場会社名 株式会社DNAチップ研究所 上場取引所 東  
 コード番号 2397 URL http://www.dna-chip.co.jp  
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)的場 亮  
 問合せ先責任者 (役職名)総務課長 (氏名)大塚 勉 (TEL)03(5777)1700  
 四半期報告書提出予定日 2020年8月7日 配当支払開始予定日 一年一月一日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2021年3月期第1四半期の業績（2020年4月1日～2020年6月30日）

#### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第1四半期	27	△44.7	△70	—	△70	—	△70	—
2020年3月期第1四半期	49	14.7	△61	—	△61	—	△61	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第1四半期	△13.25	—
2020年3月期第1四半期	△12.08	—

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益につきましては、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第1四半期	1,091	1,031	92.4
2020年3月期	743	653	84.3

(参考)自己資本 2021年3月期第1四半期 1,008百万円 2020年3月期 626百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2021年3月期	—				
2021年3月期(予想)		0.00	—	0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2021年3月期の業績予想（2020年4月1日～2021年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	400	10.6	△172	—	△158	—	△159	—	△31.24

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年3月期1Q	5,789,700株	2020年3月期	5,089,700株
② 期末自己株式数	2021年3月期1Q	137株	2020年3月期	94株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年3月期1Q	5,336,446株	2020年3月期1Q	5,089,606株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(追加情報)	6
3. その他	6
継続企業の前提に関する重要事象等	6

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間(2020年4月1日～2020年6月30日)におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、今までの緩やかな回復基調から急激な減速に転じました。世界経済につきましても、新型コロナウイルス感染症の影響が世界全体へ広がったことにより、極めて厳しい状況となりました。

一方当社が属するヘルスケア分野は、高齢化や健康・医療ニーズの多様化を背景に需要期待が高まっております。政府も成長戦略の一つと位置付けており、ヘルスケア産業の活性化は今後も引き続き見込まれております。

さらに、がんゲノム医療時代の幕開けといえる話題として、昨年6月に患者のがん細胞の遺伝子変異を調べて、最適な薬を選ぶ「がんゲノム医療」の遺伝子検査システムに公的医療保険が適用になりました。対象になるのは、原発不明がん、標準治療を終えたがんや希少がんの患者で、これまでは限られた医療機関において、自費で高額な費用をかけ、わずかな可能性にかけて検査を受け、使える薬を探っていたものが、公的医療保険を利用して全国の医療機関で広く検査を受けられるようになりました。

このような状況下において、当社は、経営方針を「開発力と事業化加速」と定め、研究受託事業の成長と、診断事業におけるコンパニオン診断の事業化に取り組んでおります。現在、血液を用いて肺がんの遺伝子変異検査を行う「EGFRリキッド」をコンパニオン診断として、2019年7月10日に厚生労働省へ承認申請を行いました。承認されれば医療現場での使用が可能となります。当社はこのEGFRリキッドの薬事承認・公的医療保険適用と、それに続く肺がんコンパクトパネルの薬事承認申請の準備を進めており、肺がん診断領域での早期事業化を最優先事項として取り組んでおります。

これらの結果、当第1四半期累計期間の売上高は27百万円(前年同四半期比55.3%)となりました。利益面では、営業損失70百万円(前年同四半期営業損失61百万円)、経常損失70百万円(前年同四半期経常損失61百万円)、第1四半期純損失70百万円(前年同四半期純損失61百万円)となりました。

事業部門別事業状況は次のとおりです。

#### 【研究受託事業】

研究受託事業におきましては、主な事業として受託解析サービスを行っております。大学や研究機関、製薬会社等の企業を主要な顧客として、遺伝子関連解析のサービスや解析結果の統計処理のサービスを提供しております。主なサービスは、マイクロアレイ受託解析サービスと次世代シーケンス受託解析サービスがあります。共に大学や研究機関、製薬会社等の研究開発を伴う企業に対し積極的な提案型営業を行うとともに、きめ細やかなフォローを推進しております。また、各種受託解析の実績から顧客の目的に合わせた実験デザインの提案、データ解析及びサポートに力を入れると共に、顧客ニーズに合わせた新規サービスメニューの拡充を図っております。

次世代シーケンスと並び注目を集める遺伝子解析として「デジタルPCR受託サービス」や独自の「再生医療研究分野に向けた間葉系幹細胞の品質評価解析サービス(C3チェックサービス)」等新規サービスを展開しております。

いずれのサービスにつきましても、他社との差別化を意識し、クオリティの高い内容をお客様に提供すべく取り組んでおります。

その結果、当第1四半期累計期間の売上高は、26百万円(前年同四半期比65.2%)となりました。

#### 【診断事業】

診断事業におきましては、血液を用いて肺がんの遺伝子変異を検査する「EGFRリキッド」の市場への普及を当社の最優先事項として取り組んでおります。現在この検査の薬事承認、保険収載を目指した活動を行っております。この検査は、低侵襲的な血液遺伝子検査により、血中に微量に存在する血中腫瘍DNA上のEGFR変異を次世代シーケンス法により高感度に検出するリキッドバイオブシー検査です。肺がん組織の生検(気管支鏡検査、CTガイド化生検)は、侵襲性が高く患者さんへの負担も大きいことから、リキッドバイオブシー検査への期待が高まっています。EGFRリキッドに加え、その改良版としてのNOIRS技術(分子バーコード技術を用いて高感度かつ正確な分子数測定が可能となる超低頻度変異DNAの検出技術)により、高感度に複数遺伝子を一括解析可能なリキッドバイオブシー遺伝子パネル検査サービスも提供しております。また、リキッドバイオブシー検査に続いて、肺がん組織検査に特化した高感度な一括遺伝子検査パネル(仮称：肺がんコンパクトパネル)を開発中です。コンパクトパ

ネルは、EGFR ALK ROS1 BRAF MET の5つのコンパニオン診断可能な遺伝子と近い将来分子標的治療薬の上市が予定されているいくつかのターゲット遺伝子が対象です。肺がんコンパクトパネルは、生検もしくは手術等により採取・切除された組織のFFPE検体を対象とした遺伝子検査として、国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学、地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪国際がんセンターと共同で開発してきているものです。また、細胞診検体を対象とした検査としての有用性を検証するため、学校法人聖マリアンナ医科大学との共同研究も実施しております。現在肺がんコンパクトパネルについては、薬事申請に向けた薬事試験で開発を進めております。

その他の検査メニューとして、遺伝子解析を用いた関節リウマチの薬剤効果予測検査、うつ病の診断技術の開発も積極的に進めております。

また、EGFRリキッド及びNOIR-SSシーケンスをはじめとしたリキッドバイオプシー解析の独自技術の強みを活かし、研究用途としての検査サービスを製薬企業の治験付随研究・病院等向けに提供しております。

以上のように診断事業は新製品開発に多くの経営資源を集中させているため、当第1四半期累計期間の売上高は、0百万円(前年同期比8.0%)となりました。

### 『売上高の季節的変動について』

当社は、事業の性質上、売上高が第4四半期会計期間に集中する傾向があり、各四半期会計期間の業績に季節的変動があります。

### (2) 財政状態に関する説明

資産・負債及び純資産の状況

(資産)

流動資産は、前事業年度末に比べて353百万円増加し、885百万円となりました。これは、現金及び預金446百万円増加しましたが、受取手形及び売掛金101百万円が減少したことなどによるものです。

固定資産は、前事業年度末に比べて5百万円減少し、205百万円となりました。これは、有形固定資産が3百万円、投資その他の資産が12百万円、それぞれ減少し、無形固定資産の自己使用目的のソフトウェア制作による費用が9百万円の増加したことなどによります。

この結果、総資産は、前事業年度末に比べて347百万円増加し、1,091百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前事業年度末に比べて30百万円減少し、51百万円となりました。これは買掛金の減少20百万円などによるものです。

固定負債は、前事業年度末に比べて微増し、7百万円となりました。

この結果、負債合計は、前事業年度末に比べて30百万円減少し、59百万円となりました。

(純資産)

純資産は、前事業年度末に比べて378百万円増加し1,031百万円となりました。これは、資本金及び資本準備金の増加452百万円や四半期純損失70百万円の減少などによるものです。

### (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては現時点において、2020年4月23日の「2020年3月期 決算短信」に公表いたしました業績予想に修正はありません。

※本資料における予想につきましては、当社が現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであります。予想に内在するさまざまな不確定要因や今後の事業運営における内外の状況変化等により、実際の業績と異なる場合がありますので、ご承知置きください。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年3月31日)	当第1四半期会計期間 (2020年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	302,379	748,946
受取手形及び売掛金	166,324	64,463
商品	0	0
仕掛品	-	651
貯蔵品	9,781	11,726
前払費用	51,563	54,341
その他	1,706	5,459
流動資産合計	531,754	885,589
固定資産		
有形固定資産	24,405	20,981
無形固定資産	64,354	74,261
投資その他の資産	122,882	110,489
固定資産合計	211,642	205,731
資産合計	743,397	1,091,321
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	47,462	27,096
その他	35,210	24,734
流動負債合計	82,672	51,830
固定負債		
退職給付引当金	7,391	7,699
固定負債合計	7,391	7,699
負債合計	90,063	59,529
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	416,219	642,439
資本剰余金	443,798	670,018
利益剰余金	△232,970	△303,683
自己株式	△68	△92
株主資本合計	626,979	1,008,681
新株予約権	26,354	23,110
純資産合計	653,334	1,031,791
負債純資産合計	743,397	1,091,321

## (2) 四半期損益計算書

第1四半期累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自2020年4月1日 至2020年6月30日)
売上高	49,435	27,357
売上原価	60,154	41,009
売上総損失(△)	△10,719	△13,652
販売費及び一般管理費	51,257	57,074
営業損失(△)	△61,977	△70,727
営業外収益		
受取賃貸料	181	-
還付消費税等	-	3
その他	56	-
営業外収益合計	237	3
営業外費用		
為替差損	91	0
営業外費用合計	91	0
経常損失(△)	△61,830	△70,724
特別利益		
固定資産売却益	411	-
新株予約権戻入益	-	249
特別利益合計	411	249
特別損失		
固定資産除却損	-	0
特別損失合計	-	0
税引前四半期純損失(△)	△61,419	△70,475
法人税、住民税及び事業税	72	237
法人税等合計	72	237
四半期純損失(△)	△61,492	△70,712

## (3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

2020年3月6日発行の第4回新株予約権(第三者割当による行使価額修正条項付新株予約権)の行使に伴う新株の発行による払込みを2020年4月10日から2020年6月10日の期間に渡り受け、資本金及び資本準備金がそれぞれ226,219千円増加しております。この結果、当第1四半期会計期間末において資本金が642,439千円、資本準備金が670,018千円となっております。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う会計上の見積りについて

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、2020年4月7日に政府より緊急事態宣言が発出され、同5月25日には全面解除となり、一旦は新規感染者数も落ち着いたかに見えましたが、6月以降再び感染者数が増加傾向にあり、未だ経営環境の回復も鈍く不安定な状況であります。

このような状況の中、当社においても今後短期的には受注量が鈍ると予想されますが、年度末には概ね収束するとの仮定を置いて固定資産の減損等に関する会計上の見積りを実施しております。

なお、当該見積りは最善の見積りではありますが、見積りに用いた仮定の不確実性は高く、新型コロナウイルス感染症の終息時期及び経済環境への影響が変化した場合には、上記見積りの結果に影響し、当社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に影響を及ぼす可能性があります。

## 3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、将来にわたって事業活動を継続するとの前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況といたしまして、2006年3月期より、継続的な営業損失の発生及び営業キャッシュ・フローのマイナスを計上しております。

また、当第1四半期累計期間におきましても、営業損失70百万円、経常損失70百万円、純損失70百万円を計上しておりますが、これを改善するために次のような取り組みにより、当事業年度は400百万円の売上確保をめざしております。

## ①研究受託事業

## ・提案型研究受託の営業強化

研究受託事業におきましては、提案型研究受託の営業強化を図り、従来の大学・研究所中心のビジネスに加え、製薬会社、食品会社等の企業向けビジネスの拡大を図ってまいります。

## ・大型案件の受注の確保

大型案件の受注を確実に確保し、売上の拡大を図ってまいります。

## ・外部との連携強化

他社との販売連携を実施し、受注件数を拡大してまいります。

## ・新サービスメニュー開発によるメニューの差別化

お客様の要望の高い新サービスメニューを開発し、他社との差別化を図り受注の拡大を図ってまいります。

## ②診断事業

## ・EGFRリキッドの薬事承認・公的医療保険適用による事業化

診断事業におきましては、独立行政法人医薬品医療機器総合機構に対してEGFRリキッドの薬事申請を行っております。

## ・次世代シークエンサーを使用した肺がんコンパクトパネル検査の開発



EGFRリキッドに続く次世代シーケンサーを使用した肺がんコンパクトパネル検査の薬事申請に向けた準備を進めております。